

兔道お花(う)

兔文

つれおしし日夜をゆる葉梅咲

人の心のまこと吹 風

其成

鬼舞ふ山吹衣うちまきて

眉山

舟さしつらぬ水のえの

香臍

月影のしるらちうそみき交

本

家もこゑをまきる松栢の葉

文

未略

唐紙や春ふ風おきこゑの目

暮臍

花こもふまのまはり花船の腹

兔文

よみやあはれふつら風の目

其成

やまの山草一花ふを影ひそかくは

眉山

雨の井子ちつても土まふるんち

蘭更

寛政二成ノと

